

# もりおか歴文館だより 10

Rekibunkan News Vol.

〈2018.3.1 発行〉

- ◆ 平成29年度開催企画展のご報告
- ◆ 歴文館レポート 「ANIMALs×morioka」と「まぼろし動物園」を終えて  
新企画「れきぶんナイトミュージアム」のご報告
- ◆ 歴文館スタッフ伝言板 ~新体験プログラム~
- ◆ インフォメーション



## ◆「鍾馗図」

明治～大正期に活躍した浮世絵師、日本画家である真野暁亭（1874～1934）によって描かれた鍾馗図。江戸の生まれで、河鍋暁斎、久保田米巣の下で日本画を学んだ。明治38年（1905）に盛岡で開催された画会に特別参加し、同地に長期逗留したため盛岡、東北地方には暁亭の作品が多く残っているという。

画題の「鍾馗」はかつて中国の王朝であった唐（618～907）の時代に実在した人物といわれ、時の皇帝 玄宗が病に伏した際、その夢に現れ魔を祓い、病を癒したという説話が広く知られている。日本では主に疱瘡除けや学業成就などに利益があるとされ、江戸時代には端午の節句の時期に鍾馗の絵を飾る風習が流布した。

※同資料はテーマ展「桃と菖蒲～上巳の節供と端午の節句～」  
(2018年5月14日まで) に展示中



## 企画展

### 「盛岡南部家の生き方・第2部 一揺らぐ盛岡藩に立ち向かう南部家一」

2017年4月19日(水)～7月2日(日)

盛岡南部家歴代当主の実態を掘り下げ、「殿様」の実像に迫り、改めて盛岡の歴史を辿る企画展の第2弾。昨年度に引き続き、今回は5代南部行信から10代利正まで6人の藩主に焦点をあて、江戸時代の真っ只中に南部家・盛岡藩では何が起こっていたのかを、さまざまな資料を基にご紹介しました。



## 企画展

### 「ANIMALs×morioka —資料のなかの動物たち—」

2017年7月28日(金)～10月9日(月)

かつて盛岡藩領に暮らした人々は、実にさまざまな動物と深い関わりを持って生きてきました。南部駒として名高いウマや農耕を助けてくれるウシのほか、多様な野生動物たちが人々の暮らしのすぐ側にいたことが資料を通じ今に伝わっています。本展では、ときに人々の助けとして、ときに脅威として歴史の中に現れる動物たちを、美術工芸品や歴史資料など、彼らが登場する資料と共にご紹介しました。



## 企画展

### 「もりおか冬事情 一寒さと戦う・冬を楽しむ一」

2017年11月22日(水)～2018年2月12日(月)

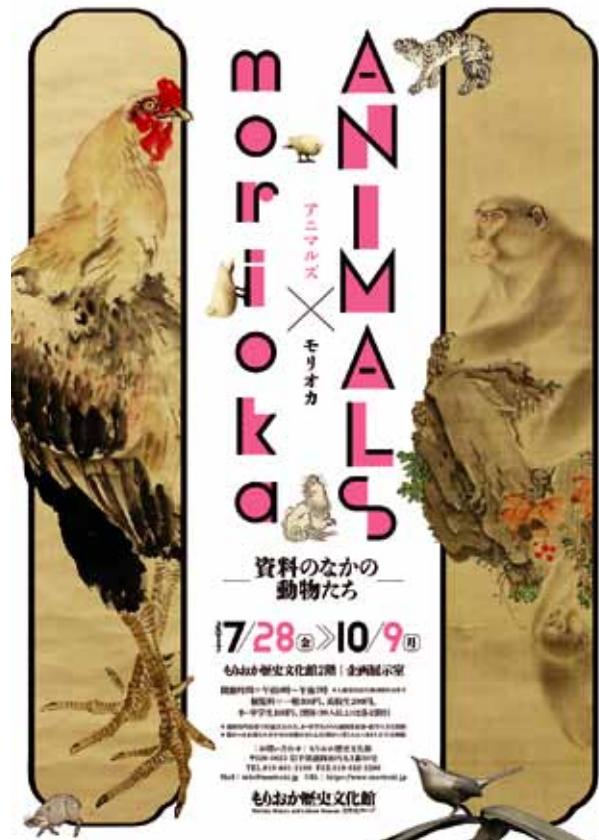
全国の中でも冬の寒さが厳しい盛岡市。ましてや現在の様に暖房器具や交通機関も発達していなかった時代を考えると、当時の人たちは雪と氷に包まれた厳しい寒さの時期をどのように乗り切ってきたのでしょうか。本展では主に昭和時代頃を中心とした写真資料、冬の暮らしを支えた衣服や道具類などを展示し、昔ながらの暖をとる方法やその変遷、逆に寒いことを活かして楽しむ盛岡の人々の姿をご紹介しました。



## 企画展「ANIMALs×morioka —資料のなかの動物たち—」

2017年夏、もりおか歴史文化館では企画展「ANIMALs×morioka —資料のなかの動物たち—」を開催しました。古来より、人と動物たちとの間には切っても切り離せない強い関わりがあります。特に江戸時代以前には、労働力としての動物が必要とされていましたし、ウマやタカは政治的にも非常に大切な動物でした。現在に残された史料には、野生動物による人的被害の報告や藩などによる害獣駆除の記録も残されており、良くも悪くも動物たちが今よりもずっと身近な存在であつたことがわかります。

そこで本展では「江戸時代の人々にとって動物はどのような存在であったか」をメインテーマに、人と動物の様々な関わりを示す資料を紹介いたしました。ご来場いただいた皆様には、絵画や工芸品の中に表された動物たちの姿、そして歴史史料の中で語られる動物の様子から、この地に暮らす人と動物の関係が今と昔でどのように違うのか、あるいは同じなのかをほんの少しでも感じていただけたなら幸いです。

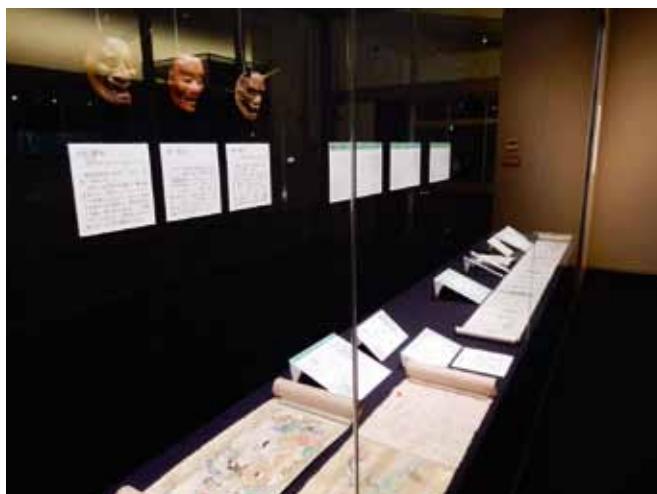


## テーマ展「まぼろし動物園 —資料のなかのモノノケたち—」

「動物」の中にはその存在自体があまりにも怪しく、人との関わりを語りようのないものもいます。例えば長生きしたネコが変化するという猫又、麒麟や鳳凰、猿、龍に鶴、カッパ、ツチノコなど、一般に「妖怪」「モノノケ」「幻獣」などと呼ばれる彼らは様々な資料に登場し、現在にその姿を伝えています。そんな彼らをぜひ多くの方にご覧いただきたいと考えて企画したのが、企画展と同時開催のテーマ展「まぼろし動物園 —資料のなかのモノノケたち—」です。

全国各地でのカッパの目撃証言やカッパの生態などを記した「水虎之図」や、奇想天外な姿の動物や神々が登場する古代中国の地理書「山海經」などを中心に、ケース内に資料を展示したことはもちろんですが、さらに1種類でも多くの生き物をご覧いただすべく、資料から抜き出した挿絵を10数枚のパネルにしてケース外の壁にも展示を広げてみました。

当館としては異色の展示テーマ、展示手法でしたが、なんとも言えないかわいらしさとおかしみのある生き物たちを、文字通り「資料の枠を超えて」様々な世代の方々に大変熱心にご覧いただくことができたように思います。



## ANIMALs×モノノケ

本企画展、テーマ展の会期中、非常に多くのご家族連れの方々にご来場いただきました。夏休みを挟んだ展示ということもあり、お子様から大人まで多くの方にお楽しみいただけるようにとイラストやクイズを設置するなど工夫を凝らした展示でもありましたので、大変ありがとうございました。このように多くの方にお越しいただけたのは、「動物」や「妖怪・モノノケ」というキーワードが、大人にとっても子どもにとっても、どこかワクワクするような魅力的な言葉だったからではないでしょうか。ご観覧いただいた後、テーマの響きだけでなく内容にもご満足いただけたなら大変うれしく思います。

反省点や改善すべき点もまだまだ多い展示ではありましたが、今後も多くの方にとって魅力的で、心躍るような展示をつくりて行けるよう精進してまいりたいと思います。

### ◆歴文館レポート 新企画「れきぶんナイトミュージアム」のご報告



普段仕事や家庭の事情で博物館に来館する機会の少ない方に、もっと身近に博物館を活用していただきたい・興味をもっていただきたいと思い、平成29年度から新たな企画として始めた「れきぶんナイトミュージアム」。春・夏・秋・冬の計4回、当館の学芸員がそれぞれ市民の皆様にお伝えしたい事、一緒に考えてお話ししてみたい事をテーマに挙げ開催しました。

平成30年度も開催する予定ですので、ご興味がある方は当館のホームページをチェックしてみてください。ご参加をお待ちしております。

### <春> 国際博物館の日!「資料保存のイロハのイ」

担当:学芸員 福島 茜

毎年5月18日は「国際博物館の日」(国際博物館会議【ICOM】が1977年に制定)であることを皆様はご存知でしょうか。第1回目となる歴文館ナイトミュージアムでは博物館の役割のうち「展示」といういわば”表の顔”を支える”裏の顔”である「保存」をテーマとして取り上げました。実際に現場で行っている「保存」の業務を通して博物館の新しい側面を認識してもらい、文化財保存や調査研究活動など、展示以外の役割も担う場所としての博物館への理解を深めていただきたく企画しました。座学の後は閉館後の展示室で、学芸員が実際に資料の展示替えを行っている姿を見ていただきました。

## <夏> 今日は山の日！「山のお話し&夜の博物館探検」

担当:学芸員 太田 梢子

山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する「山の日」(2016年施行)にちなみ、主に小学生とその保護者を対象に「山」というキーワードを通して、博物館をもっと楽しんでいただきたいと思い企画しました。最初に盛岡の山にまつわる昔話を当館の館長 畑中美耶子が盛岡弁で語り、その話の中にでてきた「山」は館内のあるのか!?資料の中にある「山」を探す問題が書かれたワークシートを持ち、夜の博物館を探検していただく形で楽しんでいただきました。

## <秋> 今日は十五夜！「お月見文化を考える」

担当:学芸員 熊谷 博史

現在でも馴染みの深いお月見、そこには自然を愛する日本古来の独特的な感性が根底にあります。また前近代では月の満ち欠けに基づく陰暦で動いていたため、月に対する感覚が鋭く、現代以上に「月」にかかる行事は重要視されていました。前半の座学では奥深い「お月見」の世界を知っていただきたく、江戸時代を中心とした資料からその歴史を辿り、「お月見」のやり方に地域差があることなどをご紹介しました。後半は外に出て実際に月見「れきぶん観月会」を開催！天候にも恵まれ、美しい満月を観ながら供物の団子(饅頭)を食べ、参加者の方から豊かな時間を過ごせたと嬉しいお言葉をいただきました。

## <冬> 冬至まであと1週間！「盛岡・冬の年中行事エトセトラ」

担当:学芸員 小西 治子

私たちが暮らすここ盛岡には、かつての城下町や周辺の農村地帯も含め、様々な年中行事が日々の暮らしの中に根付いています。今回は企画展「もりおか冬事情～寒さと戦う・冬を楽しむ～」とも関連させて、盛岡における冬の年中行事、特に冬の風物詩として名高い「裸参り」を中心に取り上げました。裸参りの変遷、参加者の装束や持ち物、そこに込められた意味など、他市町村の裸参りと比較し、また写真や映像を交えてお話ししました。寒さの厳しい盛岡の冬ですが、先人たちが行事ひとつひとつに込めた願いの一端を感じていただけたなら幸いです。



春



夏



秋



冬

## ◆歴文館スタッフ伝言板 ~新体験プログラムについて~

お久しぶりでございます。盛岡城で飼われていたという乱菊丸と牡丹丸の子孫でショップの店長コトラコでございます！

盛岡での充実した時間と思い出をお持ち帰りいただけるように、楽しくできるいくつかの「体験」をご案内いたします。



### 【盛岡キャンドル製作体験】

震災の教訓から、お家の見えるところにキャンドルを飾っておきましょう！というコンセプトで始まりました。好きな絵を貼ったり、文字を書いたりと自分だけのオリジナルのキャンドルを作ることができ、小さなお子様から大人の方まで人気の体験です。ちぎり絵などの特技を活かしてじっくりと作る方や、センス良く絵を貼っていき、なんと10分程度で素敵なキャンドルを作る方など、いろいろな楽しみ方ができるのが魅力です。キャンドルは、専用ケースの中で安全に灯していただける24時間対応型です。使いきったあとも、描いた模様はそのまま残るので、思い出は消えませんよ♪

### 【まゆ人形 鬼っ子ストラップづくり体験】

盛岡に伝わる伝説の鬼を、<sup>まゆ</sup>繊とフェルトで再現したストラップを作ります。ツノが1本の赤鬼さん、ツノが2本の青鬼さん、どちらかを選んでステキなパンツをはかせちゃいましょう。

他にも「いつまでも達者に歩けますように」との願いを込めて、「南部桐下駄ミニチュアストラップづくり体験」、気軽に抹茶を楽しむ「抹茶体験」などの体験も今春から登場いたします。

団体でのご予約もできますので、町内会や子ども会、婦人会、老人会など大勢で参加したいという場合は事前にご予約をお願いいたします。少人数での体験であれば、毎日10時から16時まで行っておりますので直接スタッフにお問合せくださいませ。



■盛岡キャンドル製作体験



■南部桐下駄  
ミニチュアストラップ



■鬼っ子ストラップづくり体験



■似顔絵

プログラム名	料 金	受入人数	所用時間	体験可能時間	備 考
盛岡キャンドル	500円(1個)	1回10人まで (予約で最大30名まで)	10~30分	10:00~16:00	10人以上の場合は前日までに要予約
まゆ人形 鬼っこストラップ	800円(1個)	1回10人まで (予約で最大30名まで)	30分~60分	10:00~18:00	10人以上の場合は前日までに要予約
南部桐下駄 ミニチュアストラップ	800円(1個)	1回5人まで (予約で最大10名まで)	10~30分	10:00~16:00	5人以上の場合は前日までに要予約
抹茶体験	800円(1回)	1回15人まで	約30分	10:30~16:30	3日前までに要予約
似 顔 絵	18,000円(1回)	1回15人から	お1人あたり 約15分	9:00~18:00	1ヶ月前までに要予約
盛岡山車太鼓打ち体験	4,000円(1回)	1回5人まで (予約で最大20人まで)	約15分	10:00~16:00	1ヶ月前までに要予約
盛岡さんざ踊り体験	16,000円(15~40人) 24,000円(41~80人) 32,000円(81~120人)	1回15~120人まで	90~120分	10:00~16:00	2週間前までに要予約
実物!チャグチャグ馬コ 撮影体験	60,000円 (1回1頭分)	特になし	約60分	10:00~16:00	2週間前までに要予約

### ◆インフォメーション

#### 【刊行物(残部あり)紹介】

種別	誌 名	頁数	価格	送料
図録	企画展 『あの日あの時の盛岡 一明治・大正・昭和の風景一』	32頁	500円	360円
図録	企画展 『あの日あの時の盛岡 一馬のいた風景一』	23頁	500円	360円
図録	企画展 『旅の枝折 一みちのく観光のみちしるべー』	32頁	500円	360円
図録	企画展 『盛岡の指定文化財 一未来へのおくりものー』	38頁	700円	360円
図録	企画展 『盛岡南部家の生き方・第1部 一乱世を切り抜けた南部家と盛岡のはじまりー』	64頁	1,000円	360円
図録	企画展 『南部鉄器 一時代を超えた鐵の美ー』	64頁	1,000円	360円
図録	企画展 『盛岡南部家の生き方・第2部 一揺らぐ盛岡藩に立ち向かう南部家ー』	64頁	1,000円	360円
図録	企画展 『ANIMALs × morioka 一資料のなかの動物たちー』	40頁	700円	360円

※送料はレターパック料金です

#### 【刊行物のお求め方法】

- ・直接購入のご案内: もりおか歴史文化館のミュージアムショップで販売しています。
- ・郵送でのご購入: ①電話(019-681-2100)またはE-mail(info@moriireki.jp)で事前にお求めの図書の在庫状況をご確認ください。  
 ②希望する図書の冊数、および氏名・送付先・ご連絡先を記入いただき、代金を下記宛に現金書留でお送りください。郵送料は切手で、図書代金は現金でお願いいたします。  
 ③代金到着後、図書を発送いたします。

## 【特別展】「さんさ踊り —40年をふりかえる—」

会期:2018年3月1日(木)～3月31日(土)

「見るだけでなく、誰もが参加でき、楽しめる夏祭りをつくりたい」そんな市民の願いから、昭和53年(1978)にスタートした盛岡さんさ踊り。最初は1500人程度だった参加者もいまでは3万人以上が参加する祭りに成長しました。今回で40周年。盛岡を代表する祭りのひとつとなった盛岡さんさ踊りの40年をふりかえってみる展示を開催します。



## 【企画展】「盛岡南部家の生き方・第3部 —盛岡藩の終焉と南部家が繋ぐ未来—」

会期:2018年4月19日(木)～7月1日(日)

歴代の盛岡南部家当主(盛岡藩主)を軸に、盛岡の歴史を紐解く企画展「盛岡南部家の生き方」の完結編。近代日本の幕開けともいえる「明治」が始まり150年目の本年、各地で「戊辰戦争」や「明治維新」に関する事業が展開されています。

当館でも11代利敬から16代利恭までの盛岡藩主の事績を追いながら、教科書では描かれない江戸時代後期から幕末・明治維新期にいたる激動の盛岡をご紹介します。



## 【テーマ展】「志士の書 —幕末・明治群雄像—」

会期:2018年5月16日(水)～7月16日(月)

当館所蔵の幕末～明治期に活躍した人々の書とされる作品を一堂に展示します。

激動の幕末から明治時代にかけて、自らの志を貫いて生きた「志士」たちの書を当館収蔵資料のなかからご紹介します。

「西郷隆盛書状」より一部抜粋



## 【企画展】

- ◆盛岡南部家の生き方・第3部 一盛岡藩の終焉と南部家が繋ぐ未来一 会期:4/19(木)～7/1(日)
- ◆衣装と意匠 一武家のよそおい一 会期:7/28(土)～9/24(月)
- ◆器百様 一土器と鉄器と食器と武器と一 会期:12/1(土)～2/11(月)

## 【特別展】

- ◆南部鉄器青年展 一南部の鐵学一 会期:10/7(日)～10/28(日)

※特別展は無料

企画展・テーマ展は歴史常設展示室の入場券でご覧いただけます

※タイトル・内容などは予告なく変更される場合があります

### ご利用案内

〈開館時間〉4月～10月 9:00～19:00(2階歴史常設展示室への入場は18:30まで)

11月～3月 9:00～18:00(2階歴史常設展示室への入場は17:30まで)

〈休館日〉毎月第3火曜日(祝・休日の場合は翌日) 12月31日～1月1日

〈入館料〉入館は無料です。

2階展示室のみ有料となり、右記の  
入場料が必要となります。

	個人	団体(20人以上)
小・中学生	100円	80円
高校生	200円	160円
一般	300円	240円

○障がいをお持ちの方やその介護をなさる方(付添いを含めて2人まで)は、無料で入場できます。

○盛岡市在住で65歳以上の方は、入場料が免除されますので、係員に証明書等をご提示ください。

○盛岡市内の学校に就学している小・中学生の方は、入場料が免除されます。

○企画展をご覧になる場合は、別途入場料が必要となる場合があります。

〈交通の案内〉 ●電車をご利用の場合 ○JR盛岡駅下車 徒歩20分

●バスをご利用の場合 ○岩手県交通・岩手県北バス

●お車をご利用の場合 ○盛岡IC・盛岡南ICから車で25分

※当館の敷地内に一般車両の駐車スペースはございません。隣接する「盛岡城跡公園地下駐車場」(有料)  
など近隣の駐車場をご利用ください。



## もりおか歴史文化館

Tel:020-0023 盛岡市内丸1番50号  
Tel:019-681-2100 Fax:019-652-5296  
<https://www.morireki.jp/>